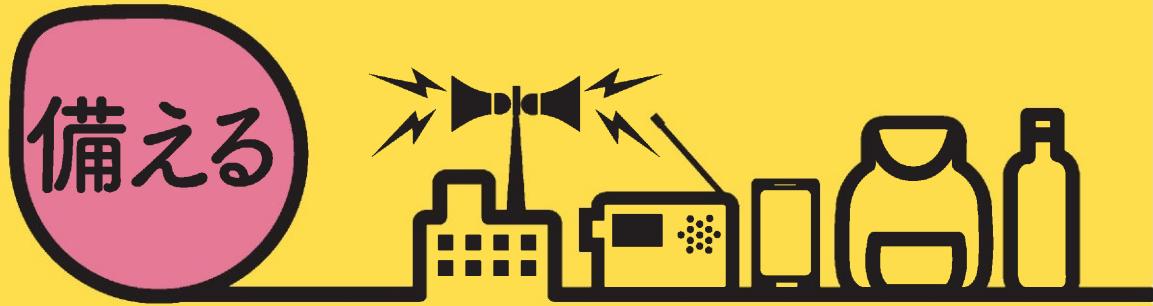


防災 読本

BOUSAI DOKUHON

 瑞穂市



瑞穂市の防災について

地震、風水害、その他の災害。

正しい知識と備えを家族みんなで確認し、「防災」を日常の一部にしていきましょう。

地勢・地質・気象などの自然条件、人口・都市化の状況・産業の集中などの社会条件、さらに過去の災害の発生状況、最新の災害予測などを総合的に検討し、瑞穂市で起こり得る災害を想定しました。



台風や集中豪雨に伴う強風や大雨は瑞穂市のどの地域でも起こり得るものです。また、東には長良川、西には揖斐川と1級河川に挟まれた低湿地であることから河川の氾濫、洪水などの災害も広い地域で想定されます。近年は「ゲリラ豪雨」などの短時間に狭い範囲で大雨が降る現象も多くなり、命を守る行動が必要とされています。こうした経過も踏まえ、日頃からの備えと避難についてご紹介します。



南海トラフで30年以内にマグニチュード8以上の地震が起こる確率は70%程度と予測されており、瑞穂市でも、いつ巨大地震が起きてもおかしくない状況にあります。瑞穂市の場合は、地震による建物の倒壊・損壊、液状化現象、さらに二次災害としての火災を中心に想定し、災害時の被害を最小にとどめるための備え、避難のポイントなどをご紹介します。



低気圧に伴って突発的に発生する竜巻や、夏場や大気の不安定な時に発生する雷、大雪時の注意点や対策方法をご紹介します。また、東日本大震災の二次災害として発生した原発事故は甚大で深刻な災害でした。瑞穂市の場合、距離が近い原子力発電所が静岡県、福井県にあることから、原子力災害について、正しい知識と備えについてご紹介します。



命を守るためにまずは避難が何より重要です。また、家庭や地域でできる防災対策や要配慮者の安全確保について、各家庭や地域で話し合い、いざという時に備えることが重要です。ここでは、避難情報の入手方法や避難するときの注意点、応急手当の方法、避難所の一覧などをご紹介します。

もくじ

発行にあたって

瑞穂市に住む私たちは豊かな自然の恵みを享受していますが、一方で河川の氾濫をはじめとする、様々な災害に備える必要があります。本市においては過去に台風に伴う大雨により河川の氾濫が発生し、住家の損壊や浸水といった被害を経験しています。また巨大地震が発生した場合には建物の倒壊や液状化の被害が予想されるなど、ひとたび大規模な災害が発生すれば市民生活に大きな影響を及ぼすこととなります。

このような中、市では災害に迅速に対応できるよう防災・減災の取り組みを進めていますが、被害を軽減するためには、公的機関による災害対策や救援などの「公助」だけでなく、市民の皆様一人ひとりが自分の身は自分で守る「自助」と、自分たちの地域は自分たちで守るという地域住民相互による「共助」の意識を高めることが、地域での防災力の強化を図る上で極めて重要となると考えています。

こうしたことから、今回、その手引きとなるよう『瑞穂市防災読本』を作成しました。

自然災害は、その全てをくい止めるることはできませんが、日頃の備えや訓練を重ねることで、被害の未然防止や軽減が可能となります。この『瑞穂市防災読本』は、最新の情報・データに基づいた「洪水ハザードマップ」のほか、発生が予想される様々な災害に対する知識と備えをまとめていますので、ぜひご活用していただきご家庭や地域を守る一助としていただければ幸いです。

●風水害対策

- 1 既往水害に関する情報
- 2 瑞穂市の水害の特徴
- 3 瑞穂市の洪水浸水実績
- 4 洪水予報や避難勧告等の伝達方法
- 4 水害時に得られる情報と、その受信や取得の方法
- 5 避難勧告に関する事項
- 6 避難行動に活用する気象情報
- 7 河川の水位に関する防災情報
- 9 洪水警報の危険度分布
- 10 洪水浸水想定区域
- 12 洪水浸水想定区域図(9河川)
- 18 内水氾濫と外水氾濫の違い
- 19 過去の浸水実績
- 20 内水浸水想定区域図
- 21 水害に備えた事前の心構え
- 22 水害発生時における避難の心得
- 23 避難の際に注意すべきこと
- 24 浸水継続時間が長い区域について
- 26 排水ポンプ場の情報
- 26 半地下家屋などの注意点

●地震対策

- 27 地震発生の仕組み
- 29 瑞穂市の地震の被害予測
- 30 瑞穂市で予想される地震
- 31 液状化現象
- 32 地震発生時のタイムライン
- 33 地震が発生した時の行動
- 35 避難に関する情報
- 37 地震対策(屋内・屋外)
- 39 地震対策(集合住宅)
- 40 地震時の火災(予防)
- 41 地震時の火災(消火方法・消火器の使い方)

●その他の災害対策

- 43 龍巻
- 44 落雷
- 45 大雪
- 46 原子力

●災害に備える

- 47 ハザードマップの解説
- 49 避難所の生活
- 51 地域の防災について
- 52 応急手当
- 53 要配慮者の安全対策
- 54 被災者支援制度
- 55 情報の入手
- 57 避難施設一覧
- 58 市・防災関係機関連絡先
- 59 家庭でできる防災対策



過去の水害実績

昭和35年8月洪水

(台風11号、台風12号)

台風11号および台風12号が8月11日と12日に相次いで高知県室戸岬に上陸しました。長良川中上流域では11、12の両日で雨量200mm～400mmの豪雨となり、美濃では13日午前9時に警戒水位を3.7mも上回り、これまで最大の伊勢湾台風時の洪水位とほぼ同水位の6.9mの水位を記録しました。また、下流の忠節では13日正午には5.7mに達し、伊勢湾台風時の5.5mの水位を上回る最高水位となりました。

この出水により、関市保戸島、岐阜市芥見地区で破堤氾濫しました。

昭和51年9月洪水

(台風17号と豪雨)

台風17号と関東から四国に停滞する前線により、9月8日午後から14日朝にかけ県西部で断続的かつ長時間にわたり大雨が続きました。

総雨量を見ると、大日岳1,175mm、八幡1,091mm、白鳥909mm、美濃840mmなど記録的な豪雨となりました。長良川中上流域では武儀川をはじめ多くの河川が氾濫し、各所で浸水被害が生じました。岐阜でも8日夜に時間雨量92.5mmの強い雨が降りました。12日には、安八町地先の長良川本川堤防が破堤する大水害となりました。



昭和51年9月（当時の穂積町で）

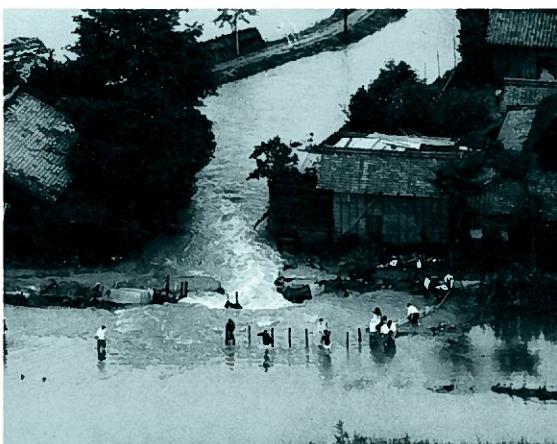
昭和36年6月洪水

(梅雨前線豪雨)

梅雨前線の北上に伴い6月24日より強く降り始めた雨は、28日までの総雨量が、長良川中上流域で約460mmに達する豪雨となりました。美濃市では27日午後3時に警戒水位を大きく上回る5.8mの水位となり、関市保戸島では、昭和34年、35年に続き破堤氾濫しました。



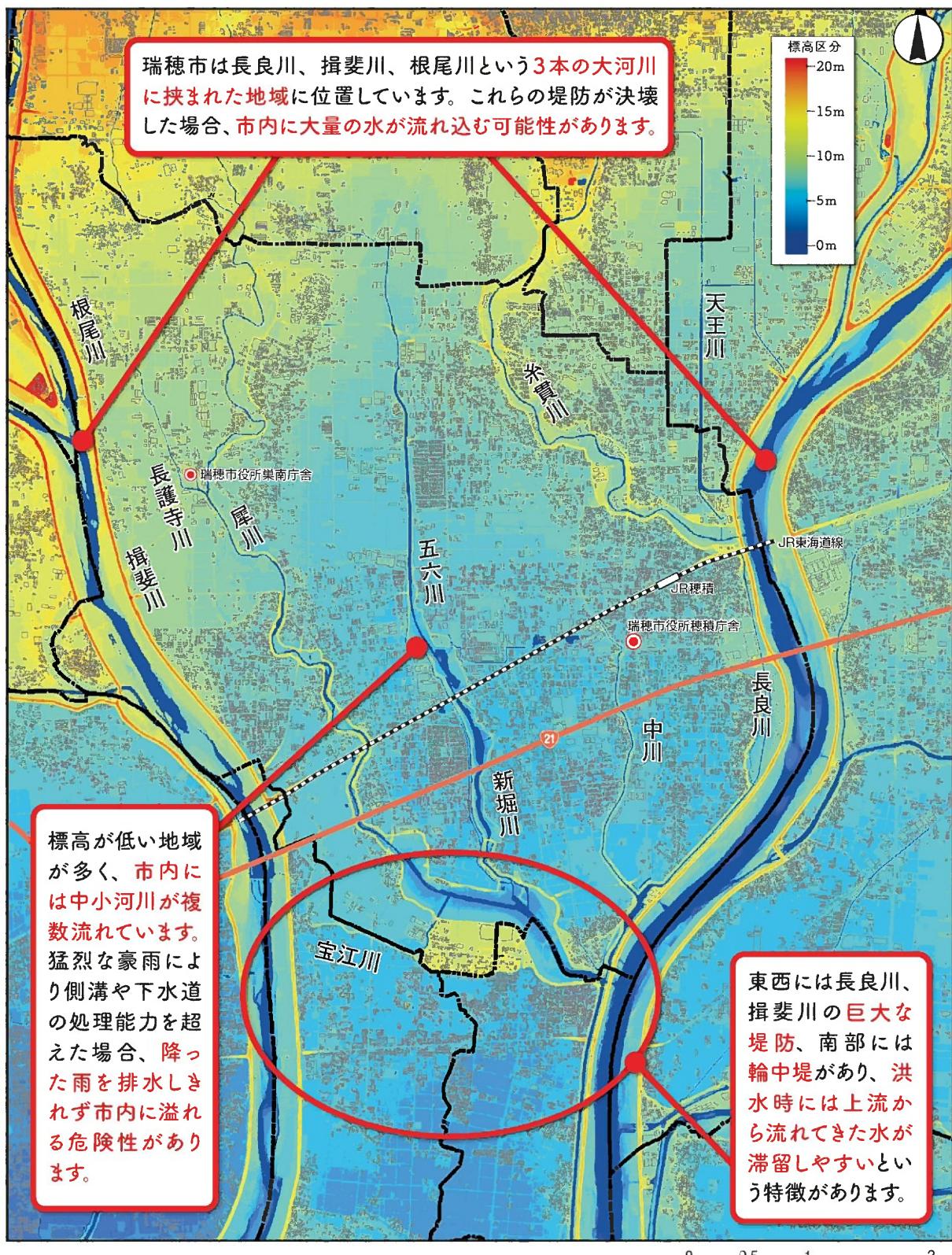
昭和36年6月（当時の穂積町で）



昭和36年6月（当時の穂積町で）



瑞穂市は長良川、揖斐川、根尾川といった大河川に囲まれており、市内は低地で中小河川が複数流れています。また、巨大な堤防と輪中堤に囲まれているという地形から、洪水時には大きな被害が発生する恐れがあります。このような瑞穂市の特徴をふまえて、災害に備えましょう。

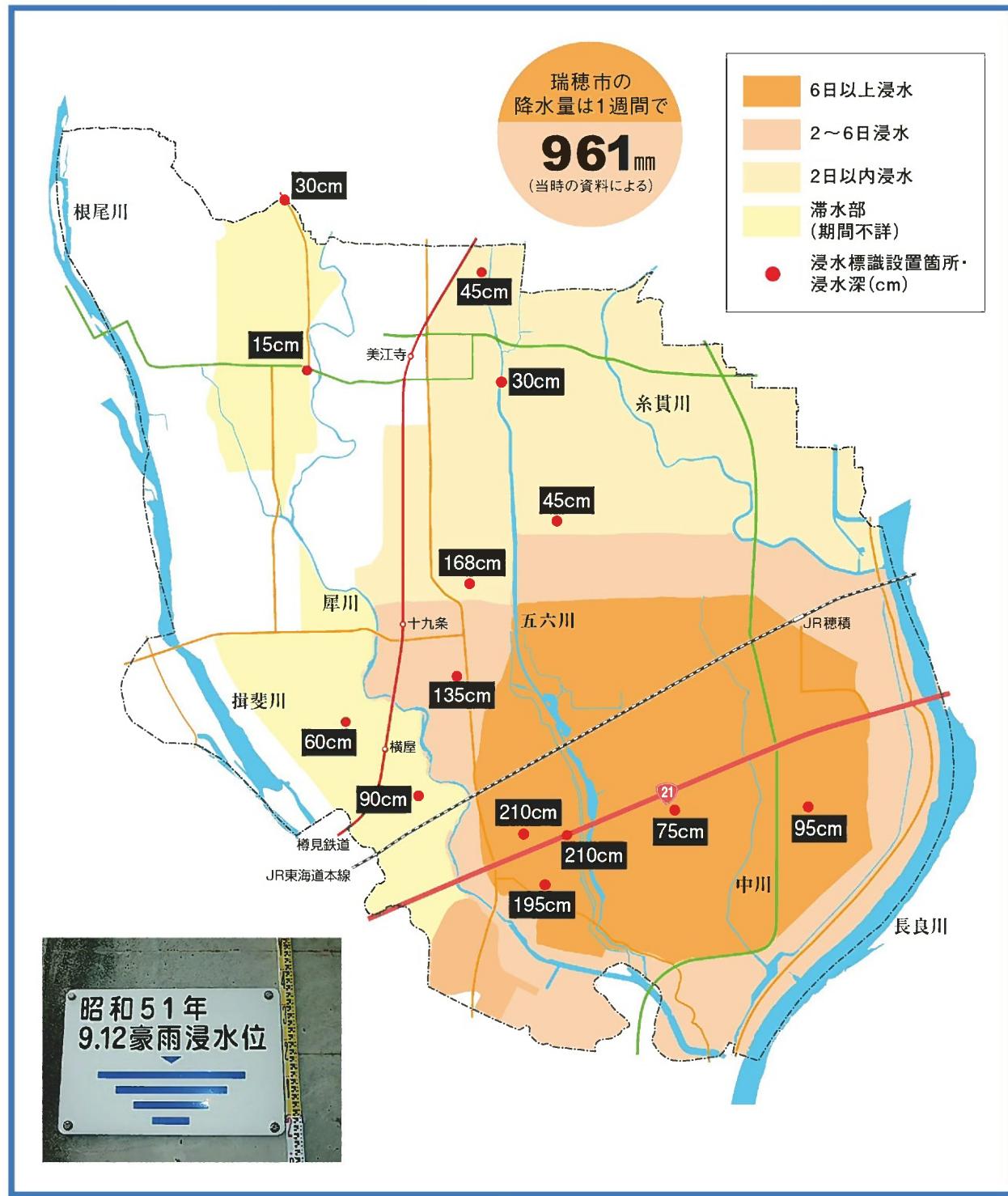


※この地図は国土地理院の数値標高モデル（5m メッシュ）から標高値を色分けして作成したものです。



昭和51年9月洪水浸水実績について

昭和51年台風17号の影響で、9月8日から降り始めた雨は、美濃平野部を中心に雷を伴う集中豪雨となり、瑞穂市（旧穂積町・旧巣南町）周辺の降水量は、1週間で961mmを記録し、多くの地域が浸水する状況となりました。当時の浸水状況の記録をもとに、市内の14ヶ所に「昭和51年9月12日豪雨浸水位」の標識が設置されています。





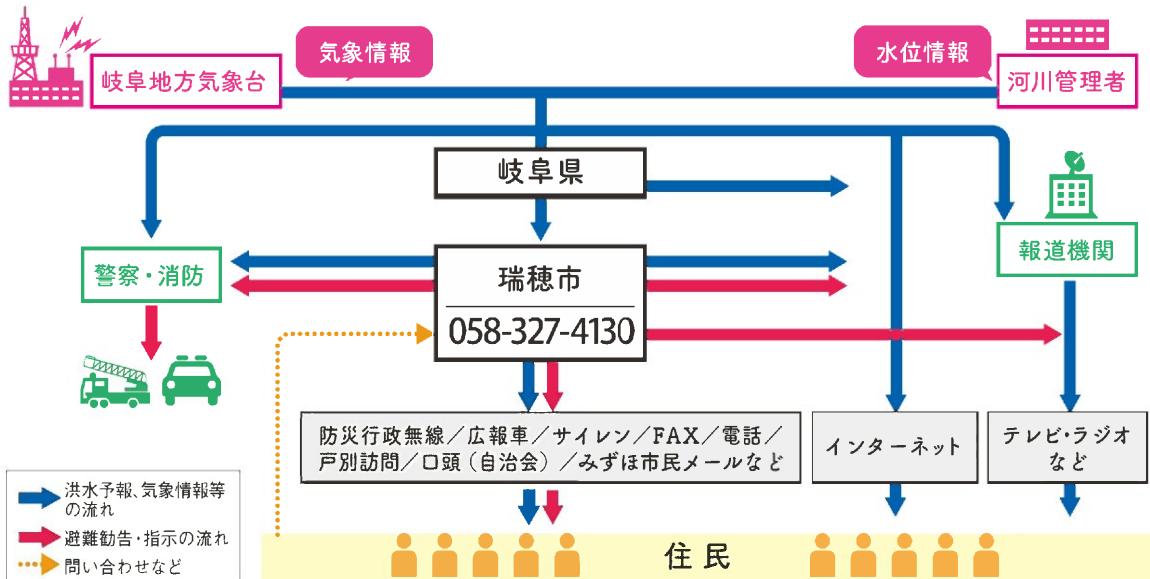
プッシュ型の情報

洪水予報や避難勧告等の伝達方法



情報の伝達

洪水予報や避難の情報は次のようにお伝えします。



風水害対策

地震対策

その他の災害対策

災害に備える



プル型の情報

水害時に得られる情報と、その受信や取得の方法



情報収集

河川、水位、水害情報の収集先です。

○ 国土交通省木曽川上流河川事務所 ホームページ

国が管理する河川のライブカメラ映像や国土交通省川の防災情報、XRAINによるリアルタイムな雨雲の様子が確認できます。

<http://www.cbr.mlit.go.jp/kisojyo/index.html>



<木曽川上流河川事務所ホームページ>

○ 岐阜地方気象台

気象の注意報・警報のほか、洪水予報や土砂災害警戒情報などの災害情報を見ることができます。

<http://www.jma-net.go.jp/gifu/>

○ 木曽川上流河川事務所モバイルサイト

携帯電話で木曽三川の水位・雨量やダムの情報などを閲覧できます。

<https://www2.cbr.mlit.go.jp/kisojyo/mobile/index.html>

○ 岐阜県 川の防災情報

岐阜県と国土交通省・気象庁が観測した岐阜県域の雨量・水位情報、河川の状況等をリアルタイムで閲覧できます。

<http://www.kasen.pref.gifu.lg.jp/>



<岐阜県 川の防災情報>



気象・雨量・河川水位及び道路通行規制情報を配信しています。あらかじめ登録が必要です。

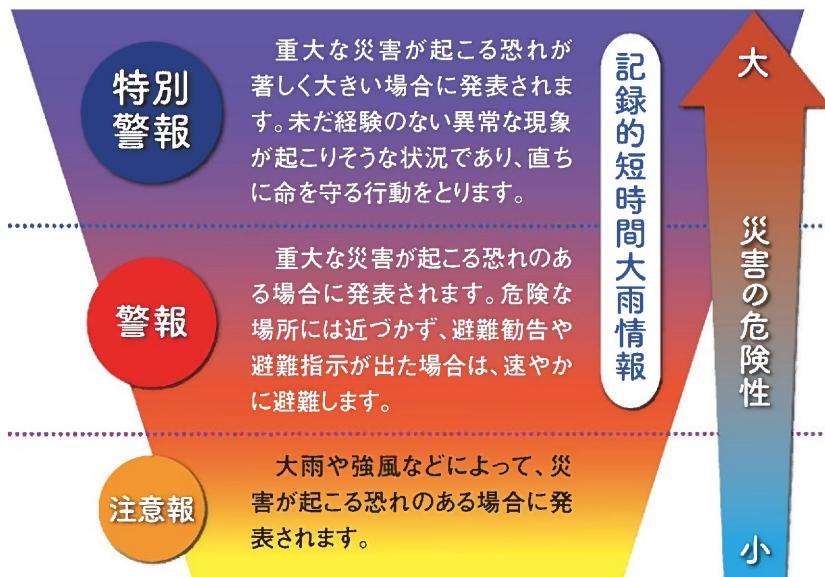
<https://service.sugumail.com/gifumember/>

その他、防災関連情報に関しては、p55、p56の「情報の入手」をご覧ください。



大雨に関する警報の種類

気象庁では、大雨などの現象に応じて、段階的な気象情報を発表して注意や警戒を呼びかけています。また平成25年8月30日からは、重大な災害発生の危険性を確実に伝えるための「特別警報」がスタート。警報をはるかに超える数十年に一度の大災害が起こると予想される場合に発表し、住民に最大限の警戒を促します。最新の情報入手に努め、注意・警戒を心がけましょう。



市から発令される避難情報と住民が取るべき行動

風水害発生の恐れの高まりに応じ、市から避難情報が発令されます。各警戒レベルに応じて適切な行動をとるよう心がけましょう。



警戒レベル	避難情報等(市)	住民が取るべき行動
洪水災害警戒レベル 5	＜行動を促す情報＞ 災害の発生情報 (出来る範囲で発表)	既に災害が発生しており、命を守るために最善の行動をとる。
洪水災害警戒レベル 4	避難指示(緊急) 避難勧告	速やかに避難場所へ避難する。 外出することでかえって命の危険が及ぶような状況では、近くの安全な場所への避難や自宅内より安全な場所に避難をする。
洪水災害警戒レベル 3	避難準備・ 高齢者等避難開始	避難に時間を要する人(ご高齢の方、障がいのある方、乳幼児等)とその支援者は避難を開始する。 その他の人には、避難の準備を整える。
洪水災害警戒レベル 2	＜行動を促す情報＞ 注意報 (大雨・洪水)	避難に備え自らの避難行動を確認する。 ハザードマップ等により災害リスク、避難場所や避難経路、避難のタイミング等を再確認する。 避難情報の把握手段の確認、注意する。 等
洪水災害警戒レベル 1	—————	災害への心構えを高める。 防災気象情報等の最新情報に注意する。 等



台風の状況と気象情報

台風が接近して災害発生の恐れが高まった場合には、台風情報と併せて大雨、洪水、暴風などの防災気象情報が発表されます。情報に注意し、早めに避難しましょう。

台風の状況		台風発生	台風接近	台風上陸
気象庁	熱帯低気圧に関する情報	台風情報 現在の状況 (3時間ごと) 最大72時間先までの予報	暴風域に入る確率の発表 72時間以内に暴風域に入る確率が0.5%以上の地域に対して発表(6時間ごと)	台風情報(1時間ごと) 台風の中心が日本の海岸線から300km以内に入った場合 「台風〇号は、〇日〇時ごろ、〇〇市内付近に上陸しました」
地元気象台	台風に関する気象情報 (以後、暴風などの状況を適宣発表)		強風、大雨注意報など	暴風、大雨警報など

風の強さと吹き方

平均風速(m/秒)	10以上～15未満	15以上～20未満	20以上～25未満	25以上～30未満	30以上
予報用語	やや強い風	強い風		非常に強い風	猛烈な風
人への影響	風に向かって歩きにくくなる。 傘がさせない。	風に向かって歩けない。 転倒する人もでる。	しっかりと身体を確保しないと転倒する。	立っていられない。 屋外での行動は危険。	
屋外・樹木の様子	樹木全体が揺れる。 電線が鳴る。		小枝が折れる。	樹木が根こそぎ倒れはじめる。	
車に乗っていて	道路の吹き流しの角度が水平(10m/秒)。高速道路で乗用車が横風に流される感覚を受ける。	高速道路では、横風に流される感覚が大きくなり、通常の速度で運転するのが困難となる。		車の運転を続けるのは危険な状況となる。	

雨の強さと降り方

1時間雨量(mm)	10以上～20未満	20以上～30未満	30以上～50未満	50以上～80未満	80以上
予報用語	やや強い雨	強い雨	激しい雨	非常に激しい雨	猛烈な雨
人の受けるイメージ	ザーザーと降る。	どしゃ降り。	バケツをひっくり返したように降る。	滝のように降る。(ゴーゴーと降り続く。)	息苦しくなるような圧迫感がある恐怖を感じる。
人への影響	地面からの跳ね返りで足元が濡れる。	傘をさしていても濡れる。		傘はまったく役に立たなくなる。	
屋外の様子	地面一面に水たまりができる。	道路が川のようになる。		水しぶきであたり一面が白っぽくなり視界が悪くなる。	
災害の危険性	この程度の雨でも長く続く時は注意が必要。	側溝や下水、小さな川があふれ、小規模のがけ崩れが始まる。	山崩れ・がけ崩れが起きやすくなり危険区域では避難の準備が必要。	マンホールから水が噴出する、土石流が起こりやすい、多くの災害が発生する。	雨による大規模な災害が発生する恐れが強く、厳重な警戒が必要。



水位及び氾濫の注意状況の確認

瑞穂市内には、揖斐川、根尾川、長良川という大河川に加え、糸貫川、犀川など中小河川が流れています。

市内で降る雨だけではなく、河川上流域の大雨等で河川の水位が上昇した場合にも、河川の氾濫による洪水（外水氾濫）の恐れがあります。また、瑞穂市周辺で降った雨の自然排水が困難となり、市街地や農地に浸水する被害（内水氾濫）も想定されます。

雨量の情報

岐阜県川の防災情報や気象庁のホームページで、市内や上流域で降っている雨の状況をリアルタイムで得ることができますので、情報を隨時収集しましょう。

「雨量の情報」はインターネットで確認することができます。p4「岐阜県川の防災情報」をご覧ください。

河川水位の情報

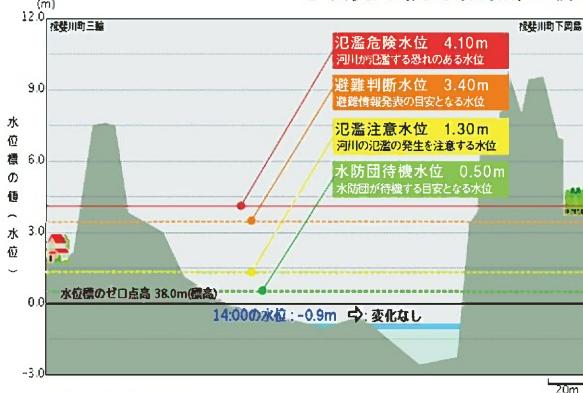
揖斐川、根尾川、長良川といった大きな河川、糸貫川や犀川といった中小河川については、以下のように現状の水位及び氾濫等の注意状況を随时確認することができますのでご利用ください。

● 洪水予報河川 [流域面積が大きく、洪水予報が可能で氾濫により甚大な損害が生じる河川]

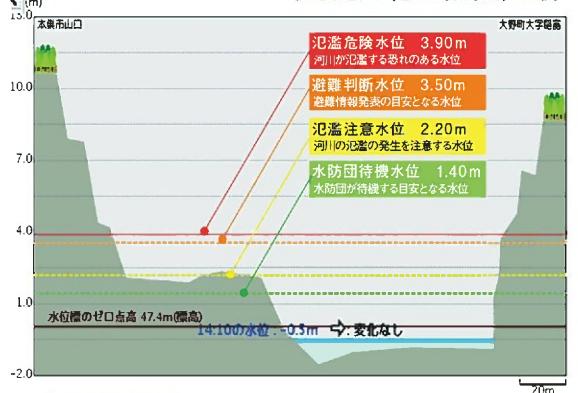
揖斐川、根尾川、長良川は洪水予報河川として指定されており、指定河川洪水予報（4種類）が発表されます。気象警報・注意報や洪水警報の危険度分布と合わせて、避難情報に従い速やかに避難しましょう。

河川名	観測所名	水防団待機水位	氾濫注意水位	避難判断水位	氾濫危険水位
揖斐川	岡島（揖斐川町）	0.50m	1.30m	3.40m	4.10m
	万石（大垣市）	2.50m	4.00m	5.80m	6.40m
根尾川	山口（大野町）	1.40m	2.20m	3.50m	3.90m
	忠節（岐阜市）	1.00m	2.00m	5.30m	5.50m
長良川	墨俣（大垣市）	2.50m	4.00m	7.20m	7.70m

● 揖斐川（岡島観測所）の例



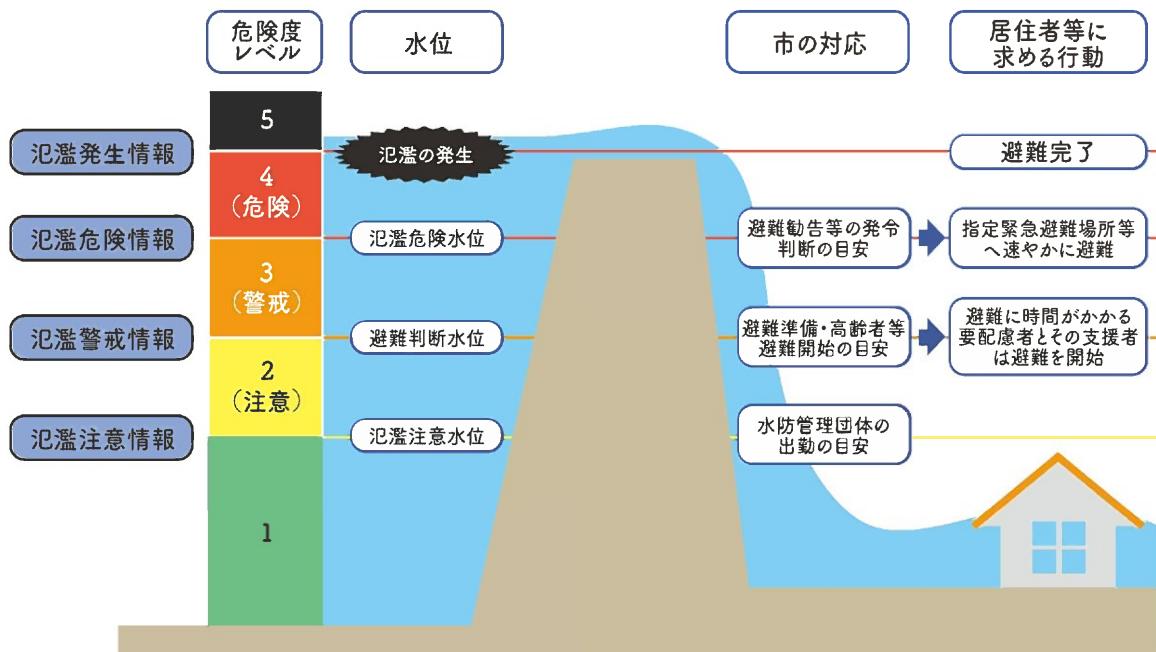
● 根尾川（山口観測所）の例



「洪水予報河川の雨量情報」はインターネットで確認することができます。p4「岐阜県川の防災情報」をご覧ください。



指定河川洪水予報の種類と危険度レベル



洪水予報の標題（種類）	発表基準	市町村・住民に求める行動の段階
○○川氾濫発生情報 (洪水警報)	氾濫の発生（レベル5）（氾濫水の予報）	氾濫水への警戒を求める段階
○○川氾濫危険情報 (洪水警報)	氾濫危険水位（レベル4）に到達	いつ氾濫してもおかしくない状態 避難等の氾濫発生に対する対応を求める段階 (避難勧告相当)
○○川氾濫警戒情報 (洪水警報)	一定時間後に氾濫危険水位（レベル4）に到達が見込まれる場合、あるいは避難判断水位（レベル3）に到達し、さらに水位の上昇が見込まれる場合	避難準備などの氾濫発生に対する警戒を求める段階 (避難準備・高齢者等避難開始相当)
○○川氾濫注意情報 (洪水注意報)	氾濫注意水位（レベル2）に到達し、さらに水位の上昇が見込まれる場合	氾濫の発生に対する注意を求める段階

● 水位周知河川 [流域面積が小さく、洪水予報が困難であるが、氾濫により相当な被害が生じる河川]

犀川、糸貫川、伊自良川は水位周知河川に指定されており、避難判断水位、氾濫危険水位に達した時に、到達情報が発表されます。

また、五六川、中川、天王川などの中小河川については、岐阜県により危機管理型水位計が順次設置されており、避難の判断材料の1つとなる「避難判断参考水位」が設定されます。

河川名	観測所名	水防団待機水位	氾濫注意水位	避難判断水位	氾濫危険水位
犀川	十八条(瑞穂市)	1.50m	1.80m	2.30m	2.40m
糸貫川	北方(北方町)	1.40m	2.00m	2.20m	2.60m
伊自良川	伊自良(山県市)	1.30m	1.70m	2.20m	2.50m



洪水警報の危険度分布

「洪水警報の危険度分布」は平成29年7月から気象庁による提供が開始された新たな防災気象情報で、洪水予報河川以外の中小河川について、3時間先までの洪水害発生の危険度を地図上で河川毎に5段階で色分けして表示されています。常時10分ごとに更新されており、河川のどこで洪水害発生の危険度が高まっているかを把握することができます。

気象庁ホームページ
リアルタイムで確認できます。

<https://www.jma.go.jp/jp/suigaimesh/flood.html>

洪水警報の危険度分布の色とその意味

洪水警報の危険度分布は、指定河川洪水予報の発表対象でない中小河川の洪水災害発生の危険度の高まりを、5段階に色分けして示す情報です。避難にかかる時間等を考慮して、3時間先の未来までの予測値を用いて色分けしており、洪水警報等が発表されたときに、どこで危険度が高まっているかを把握することができます。



色が持つ意味	説明	市町村から発令される避難情報
極めて危険	過去の重大な洪水災害発生時に匹敵する基準をすでに到達し、重大な洪水災害がすでに発生している恐が高い極めて危険な状態。	_____
非常に危険	中小河川がさらに増水し、今後氾濫し、重大な洪水災害となる可能性が高い状況。氾濫注意水位等を超えたら速やかに避難を開始する。	氾濫注意水位を越えたら 避難勧告
警 戒（警報級）	中小河川が増水し、今後氾濫し、重大な洪水災害となる可能性がある状況。水防団待機水位等を越えたら避難の準備をして早めの行動を心がける。高齢者等は速やかに避難を開始する。	水防団待機水位等を越えたら 避難準備・ 高齢者等避難開始
注 意（注意報級）	今後の情報や周囲の状況、雨の降り方に注意する。	_____
今後の情報等に注意	今後の情報や周囲の状況、雨の降り方に留意する。	_____

避難行動の例の詳細な説明はこちらの知識・解説ページからご確認ください。

洪水警報の危険度分布 http://www.jma.go.jp/jma/kishou/know/bosai/riskmap_flood.html

洪水浸水想定区域について（計画規模）

これまで数十年～100年に一度の大雨を想定した洪水浸水想定区域を指定していましたが、水防法の改正により、想定される最大規模の降雨により河川が氾濫した場合の洪水浸水想定区域を指定することとなりました。

このマップは従来通り、数十年～100年に一度の大雨（計画規模）によって各河川が氾濫した場合に浸水が想定される区域とその浸水深を表示しています。浸水の深さは各河川の洪水浸水想定区域図（計画規模）を全て重ね合わせ、浸水深の一番大きい値を採用しています。

想定条件など

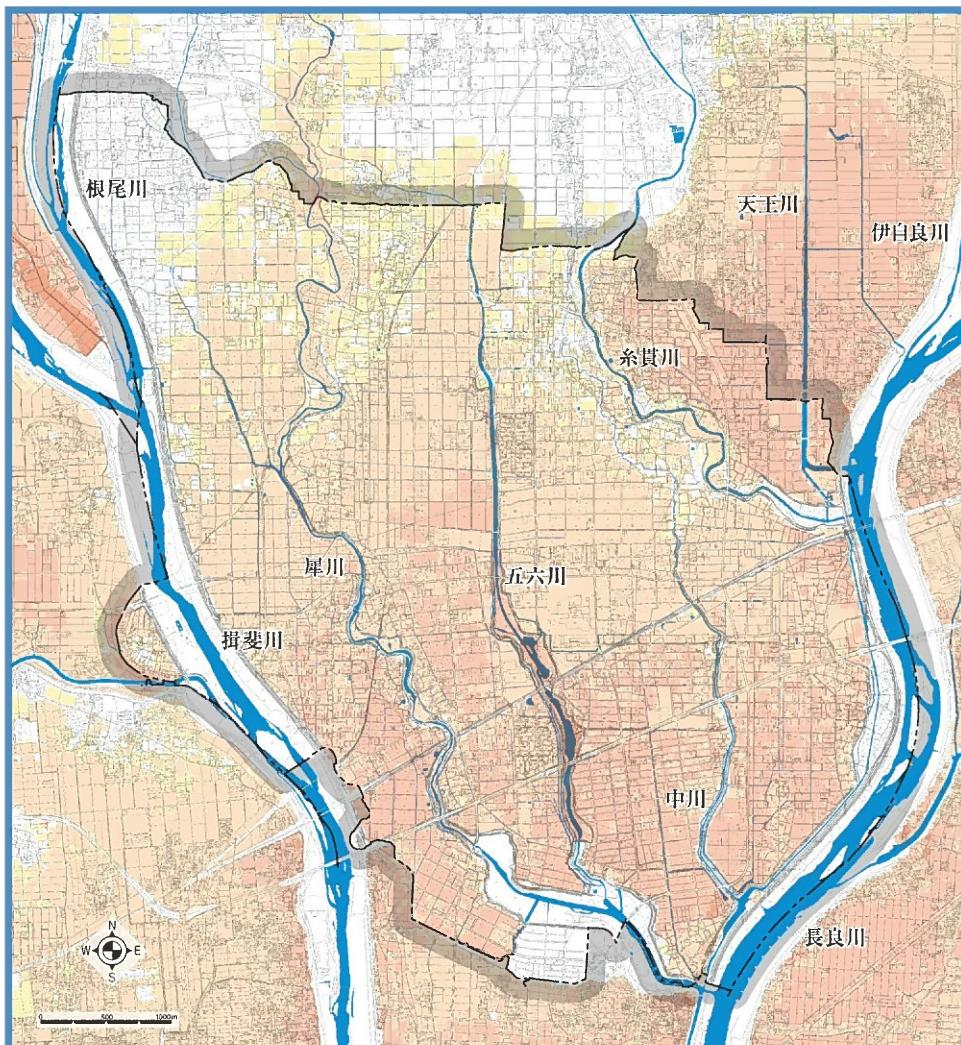
- 国交省の管理する河川については、100年に一度程度起こる大雨として、以下の降雨を想定しています。

河川名	確率	指定の前提となる降雨
長良川	1回 /100年	長良川流域の12時間総雨量 243mm
揖斐川	1回 /100年	揖斐川流域の2日間の総雨量 395mm
伊自良川	1回 /100年	伊自良川流域の6時間総雨量 240mm
根尾川	1回 /100年	揖斐川流域の2日間の総雨量 325mm

- 岐阜県の管理する河川については、数十年に一度程度起こる大雨として、以下の降雨を想定しています。

河川名	確率	指定の前提となる降雨
糸貫川	1回 /50年	糸貫川流域の24時間総雨量 247mm
犀川	1回 /80年	犀川流域の24時間総雨量 306mm
五六川	1回 /80年	五六川流域の24時間総雨量 306mm
中川	1回 /30年	中川流域の24時間総雨量 263mm
天王川	1回 /50年	天王川流域の24時間総雨量 247mm

全河川統合版



洪水浸水想定区域(想定最大規模)

洪水浸水想定区域について(想定最大規模)

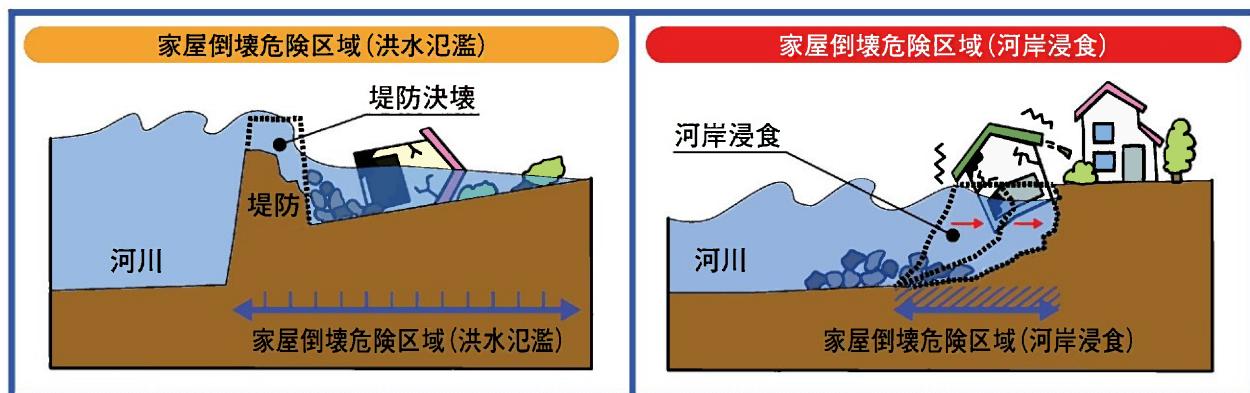
このマップは概ね1000年に一度程度の最大規模の降雨によって各河川が氾濫した場合に浸水が想定される区域とその浸水深を表示しています。浸水の深さは各河川の洪水浸水想定区域図(想定最大規模)を全て重ね合わせ、浸水深の一番大きい値を採用しています。

早期の立ち退き避難が必要な区域

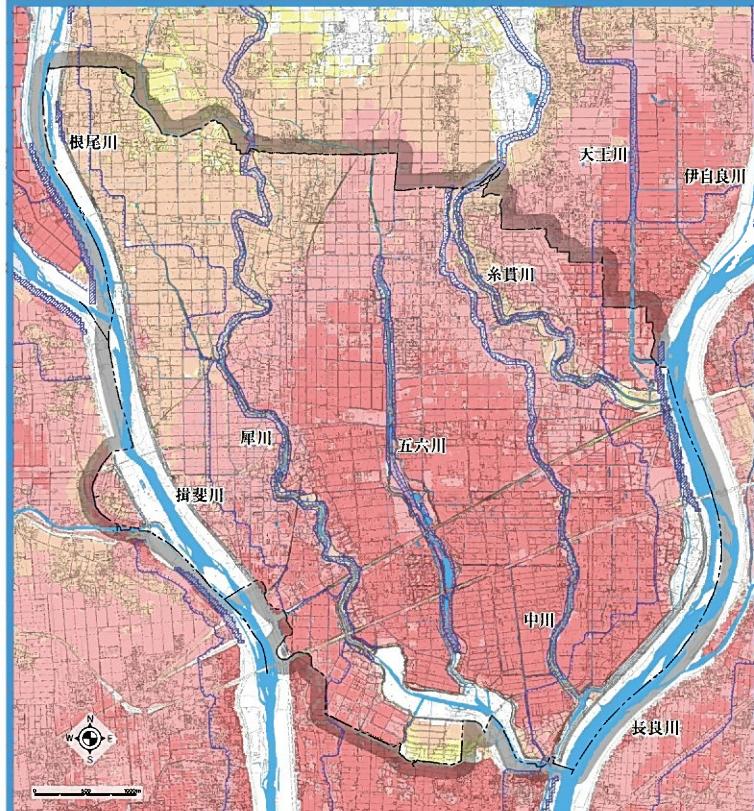
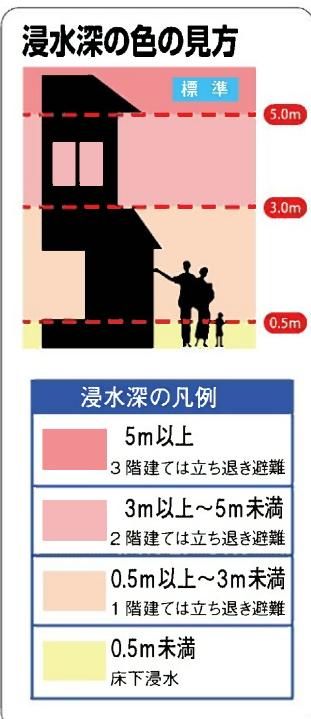
右の凡例にある「家屋倒壊危険区域(洪水氾濫・河岸浸食)」は洪水時に木造家屋が倒壊するような激しい氾濫流等が発生したり、河岸が浸食され家屋が倒壊する恐れが高い区域です。また、浸水深が5mを超える区域は2階まで浸水する恐れがあります。

これらの区域は早期の立ち退き避難が必要なため、避難勧告、氾濫危険情報等が発表された場合には速やかに避難しましょう。

凡 例	
家屋倒壊危険区域 (洪水氾濫)	木造家屋は、河川堤防の決壊等に伴う氾濫流により倒壊の恐れがあるため立ち退き避難
家屋倒壊危険区域 (河岸浸食)	(木造・非木造の)家屋は、河岸浸食により、倒壊の恐れがあるため立ち退き避難



全河川統合版



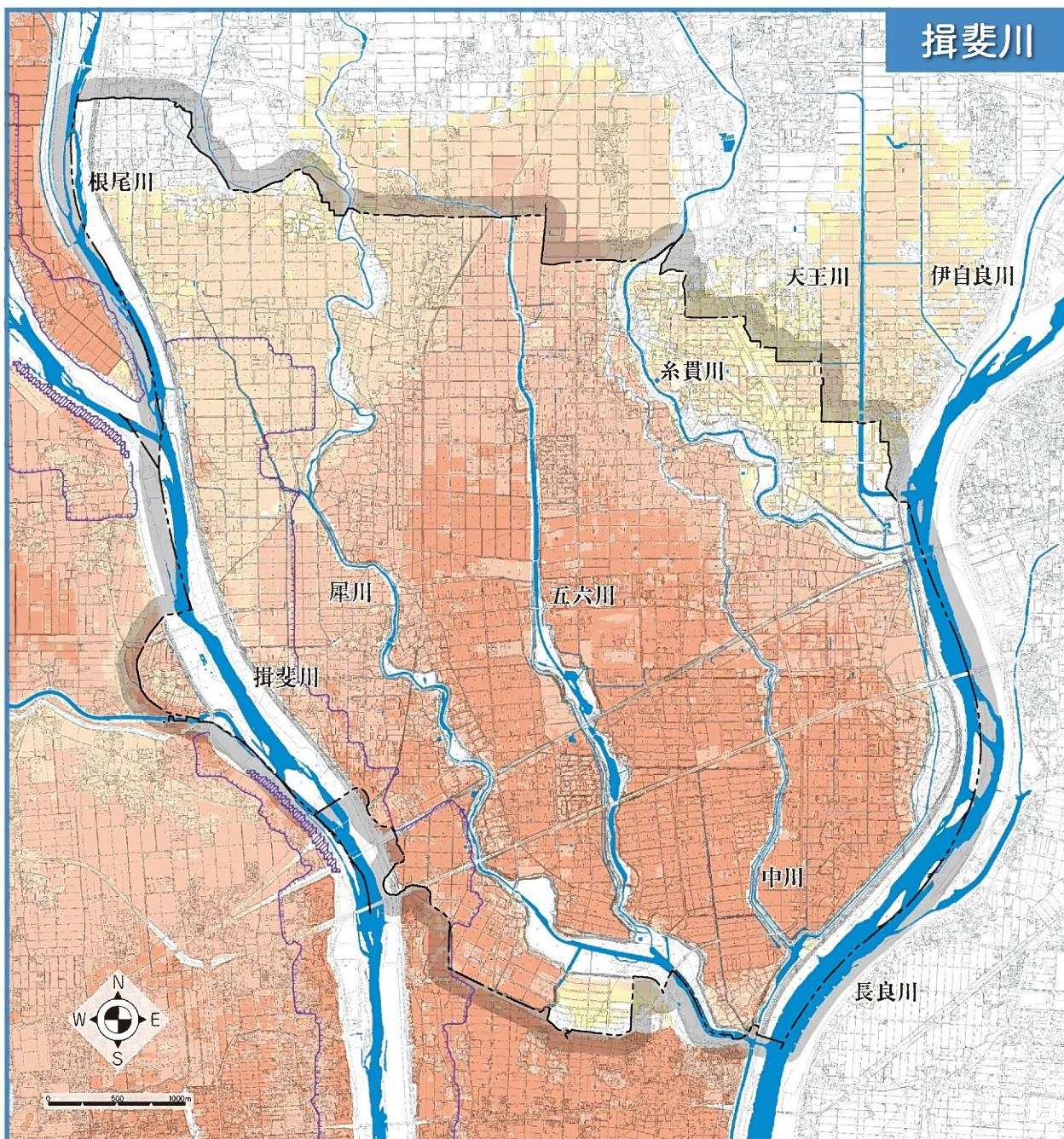
洪水浸水想定区域図（想定最大規模）

揖斐川

- この図は、木曽川水系揖斐川の洪水予報区間について、水防法の規定により指定された想定し得る最大規模の降雨による洪水浸水想定区域と浸水した場合に想定される水深を表示した図面です。
- 指定の前提となる降雨：揖斐川流域の2日間総雨量 667mm



浸水深の凡例	
家屋倒壊危険区域 (洪水氾濫)	想定される浸水深
■ 家屋倒壊危険区域 (洪水氾濫)	5m以上 3階建ては立ち退き避難
■ 家屋倒壊危険区域 (河岸浸食)	3m以上～5m未満 2階建ては立ち退き避難
■ 家屋倒壊危険区域 (木造・非木造の) 家屋は、河岸浸食により、倒壊のおそれがあるため立ち退き避難	0.5m以上～3m未満 1階建ては立ち退き避難
	0.5m未満 床下浸水



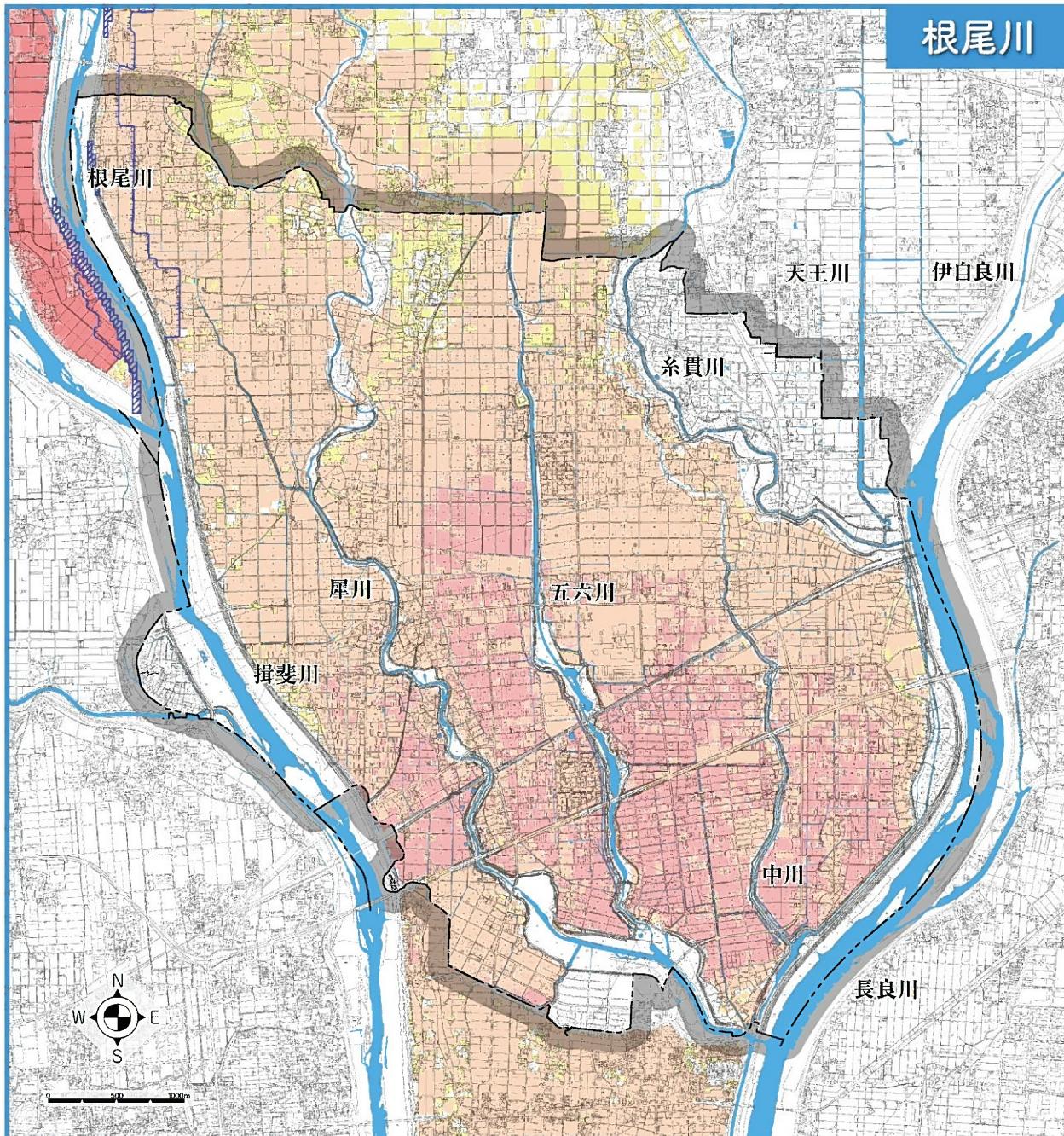
この洪水浸水想定区域図は、各河川の河道の整備状況を勘案して、想定し得る最大規模の降雨に伴う洪水により、それぞれの河川が氾濫した場合の浸水の状況をシミュレーションにより予測したもので。なお、このシミュレーションの実施にあたっては、支川の(決壊による)氾濫、シミュレーションの前提となる降雨を超える規模の降雨による氾濫、高潮及び内水による氾濫等を考慮していませんので、この洪水浸水想定区域に指定されていない区域においても浸水が発生する場合や、想定される水深がが実際の浸水深と異なる場合があります。

根尾川

- この図は、木曽川水系根尾川の洪水予報区間について、水防法の規定により指定された想定し得る最大規模の降雨による洪水浸水想定区域と浸水した場合に想定される水深を表示した図面です。
- 指定の前提となる降雨：揖斐川流域の2日間総雨量 667mm



家屋倒壊危険区域 (洪水氾濫)	浸水深の凡例	
	5m以上 3階建では立ち退き避難	3m以上～5m未満 2階建では立ち退き避難
家屋倒壊危険区域 (河岸浸食)	0.5m以上～3m未満 (木造・非木造の)家屋は、河岸浸食により、倒壊のおそれがあるため立ち退き避難	0.5m未満 1階建では立ち退き避難
		0.5m未満 床下浸水



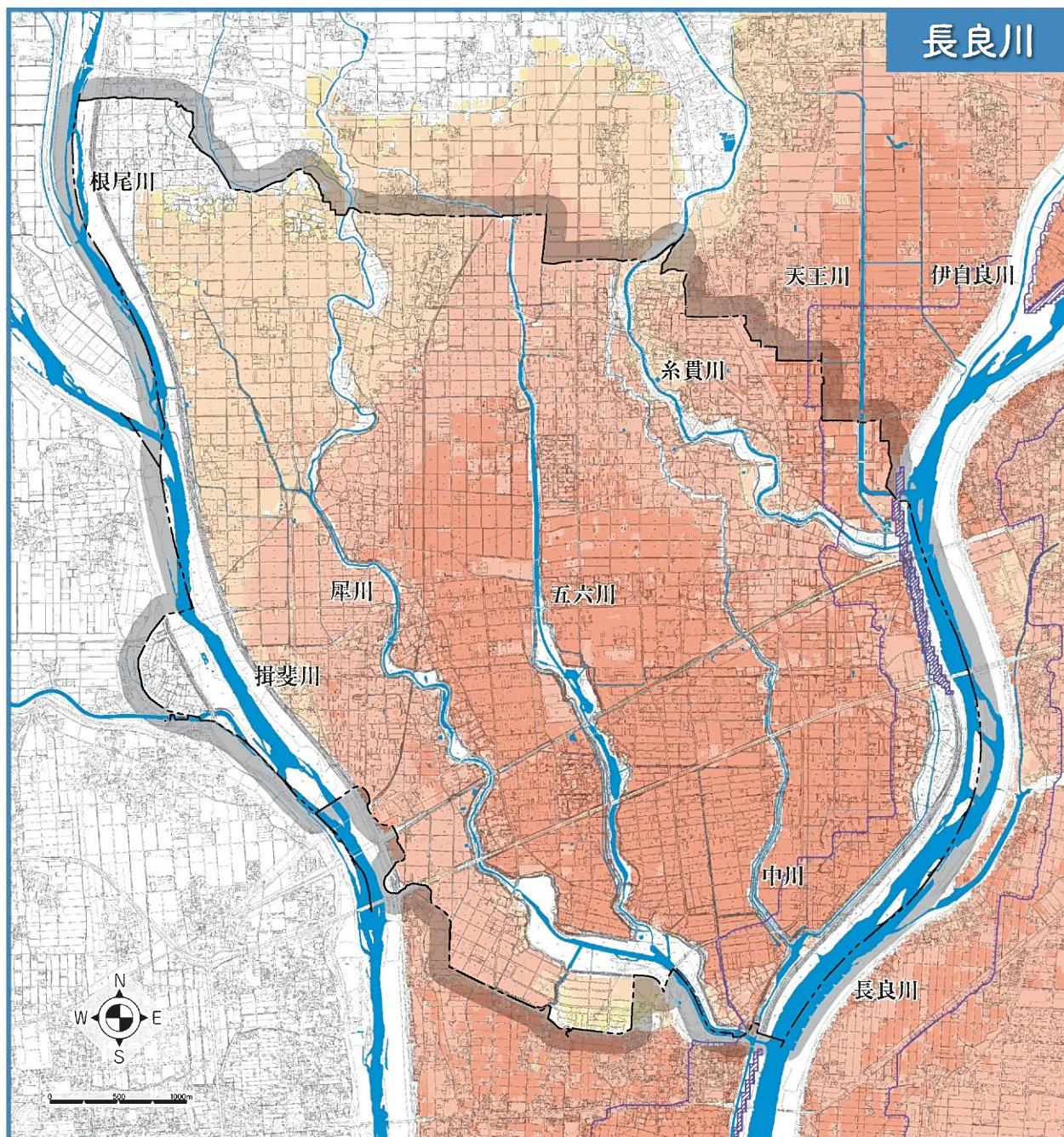
この洪水浸水想定区域図は、各河川の河道の整備状況を勘案して、想定し得る最大規模の降雨に伴う洪水により、それぞれの河川が氾濫した場合の浸水の状況をシミュレーションにより予測したものです。なお、このシミュレーションの実施にあたっては、支川の(決壊による)氾濫、シミュレーションの前提となる降雨による氾濫、高潮及び内水による氾濫等を考慮していませんので、この洪水浸水想定区域に指定されていない区域においても浸水が発生する場合や、想定される水深が実際の浸水深と異なる場合があります。

長良川

- この図は、木曽川水系長良川の洪水予報区間について、水防法の規定により指定された想定し得る最大規模の降雨による洪水浸水想定区域と浸水した場合に想定される水深を表示した図面です。
- 指定の前提となる降雨：長良川流域の12時間総雨量 421mm



想定される浸水深	浸水深の凡例	
	5m以上 (洪水氾濫)	3m以上～5m未満 (河岸浸食)
3階建では立ち退き避難	5m以上	3m以上～5m未満
2階建では立ち退き避難		2階建では立ち退き避難
1階建では立ち退き避難	0.5m以上～3m未満	0.5m以上～3m未満
床下浸水	0.5m未満	



この洪水浸水想定区域図は、各河川の河道の整備状況を勘案して、想定し得る最大規模の降雨に伴う洪水により、それぞれの河川が氾濫した場合の浸水の状況をシミュレーションにより予測したものです。なお、このシミュレーションの実施にあたっては、支川の(決壊による)氾濫、シミュレーションの前提となる降雨による氾濫、高潮及び内水による氾濫等を考慮していませんので、この洪水浸水想定区域に指定されていない区域においても浸水が発生する場合や、想定される水深がが実際の浸水深と異なる場合があります。

風水害

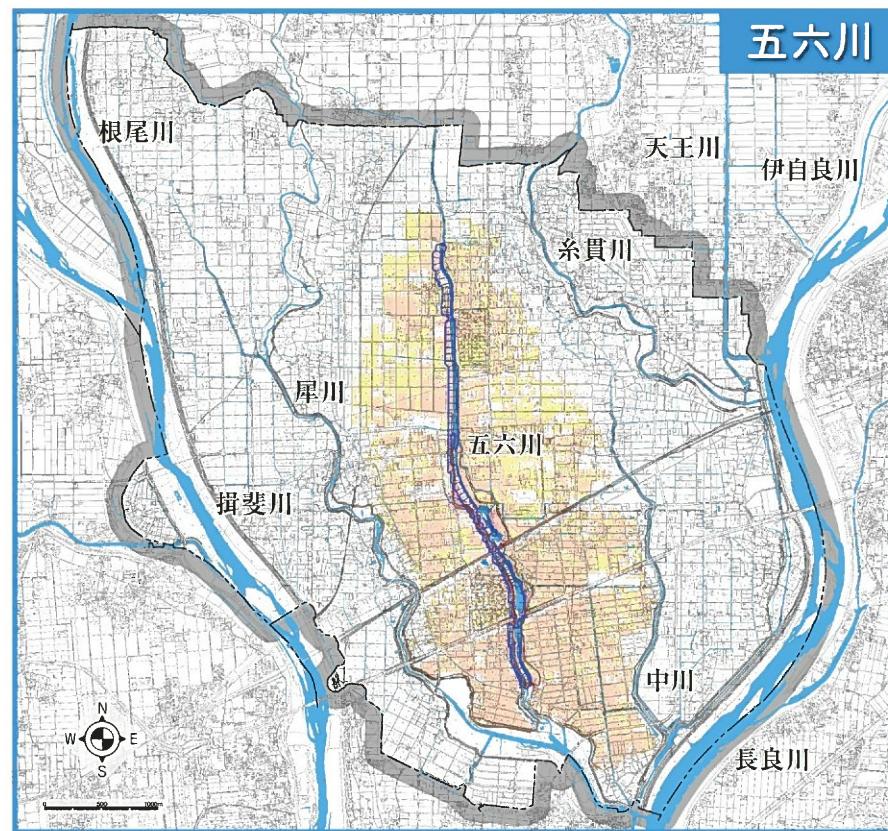
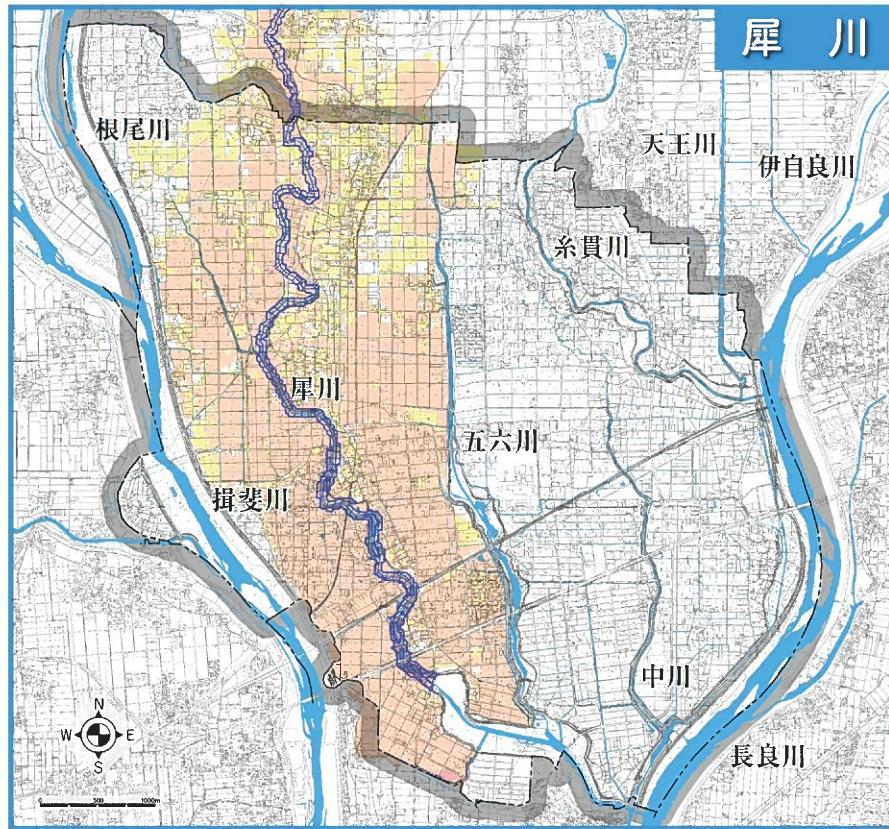
洪水浸水想定区域図（想定最大規模）

風水害対策

地震対策

その他の災害対策

災害に備える



犀川

- この図は、木曽川水系犀川の水位周知区間について、水防法の規定により指定された想定し得る最大規模の降雨による洪水浸水想定区域と浸水した場合に想定される水深を表示した図面です。
- 指定の前提となる降雨：犀川流域の24時間総雨量 836mm

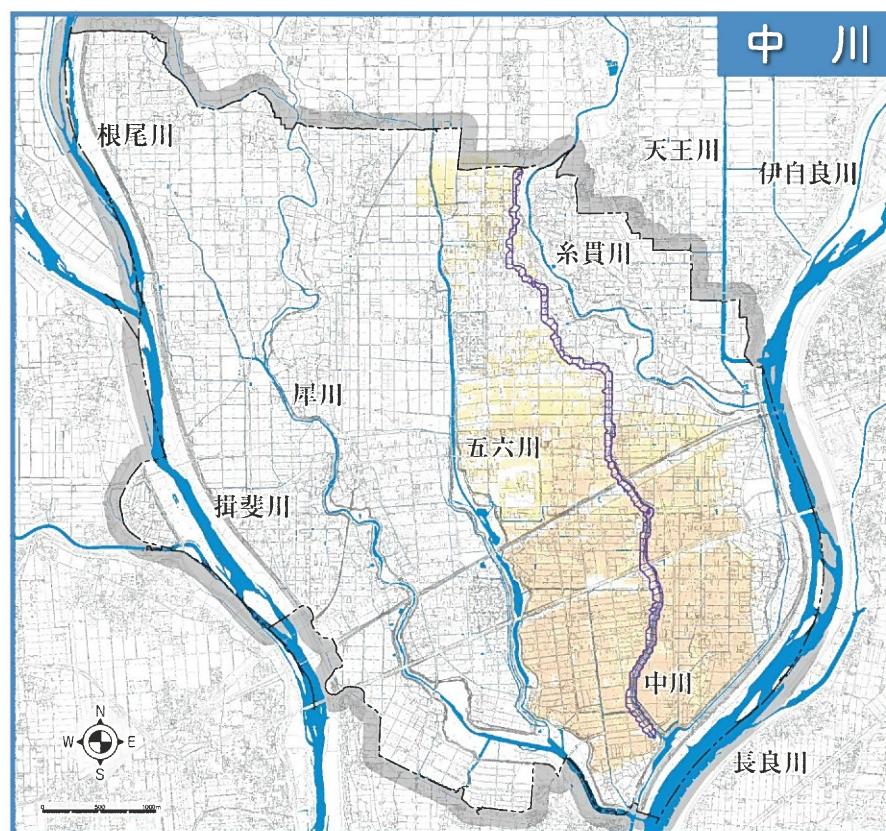
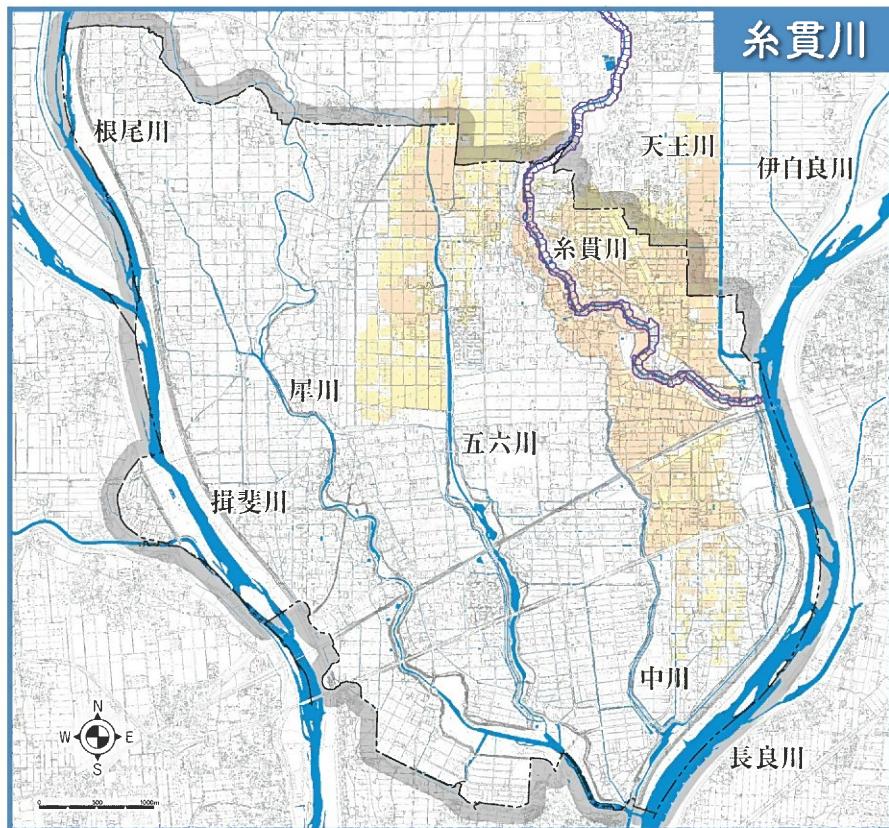
五六川

- この図は、木曽川水系五六川の岐阜県管理区間について、水防法の規定に準じた手法により想定し得る最大規模の降雨による洪水浸水想定区域と浸水した場合に想定される水深を表示した図面です。
- 指定の前提となる降雨：五六川流域の24時間総雨量 836mm

この洪水浸水想定区域図は、各河川の河道の整備状況を勘案して、想定し得る最大規模の降雨に伴う洪水により、それぞれの河川が氾濫した場合の浸水の状況をシミュレーションにより予測したものです。なお、このシミュレーションの実施にあたっては、支川の(決壊による)氾濫、シミュレーションの前提となる降雨を超える規模の降雨による氾濫、高潮及び内水による氾濫等を考慮していませんので、この洪水浸水想定区域に指定されていない区域においても浸水が発生する場合や、想定される水深が実際の浸水深と異なる場合があります。

風水害

洪水浸水想定区域図（想定最大規模）



糸貫川

- この図は、木曽川水系糸貫川の水位周知区間について、水防法の規定により指定された想定し得る最大規模の降雨による洪水浸水想定区域と浸水した場合に想定される水深を表示した図面です。
- 指定の前提となる降雨：糸貫川流域の24時間総雨量 836mm

中川

- この図は、木曽川水系中川の岐阜県管理区間について、水防法の規定に準じた手法により想定し得る最大規模の降雨による洪水浸水想定区域と浸水した場合に想定される水深を表示した図面です。
- 指定の前提となる降雨：中川流域の24時間総雨量 836mm

この洪水浸水想定区域図は、各河川の河道の整備状況を勘案して、想定し得る最大規模の降雨に伴う洪水により、それぞれの河川が氾濫した場合の浸水の状況をシミュレーションにより予測したもので。なお、このシミュレーションの実施にあたっては、支川の(決壊による)氾濫、シミュレーションの前提となる降雨を越える規模の降雨による氾濫、高潮及び内水による氾濫等を考慮していませんので、この洪水浸水想定区域に指定されていない区域においても浸水が発生する場合や、想定される水深が実際の浸水深と異なる場合があります。

風水害

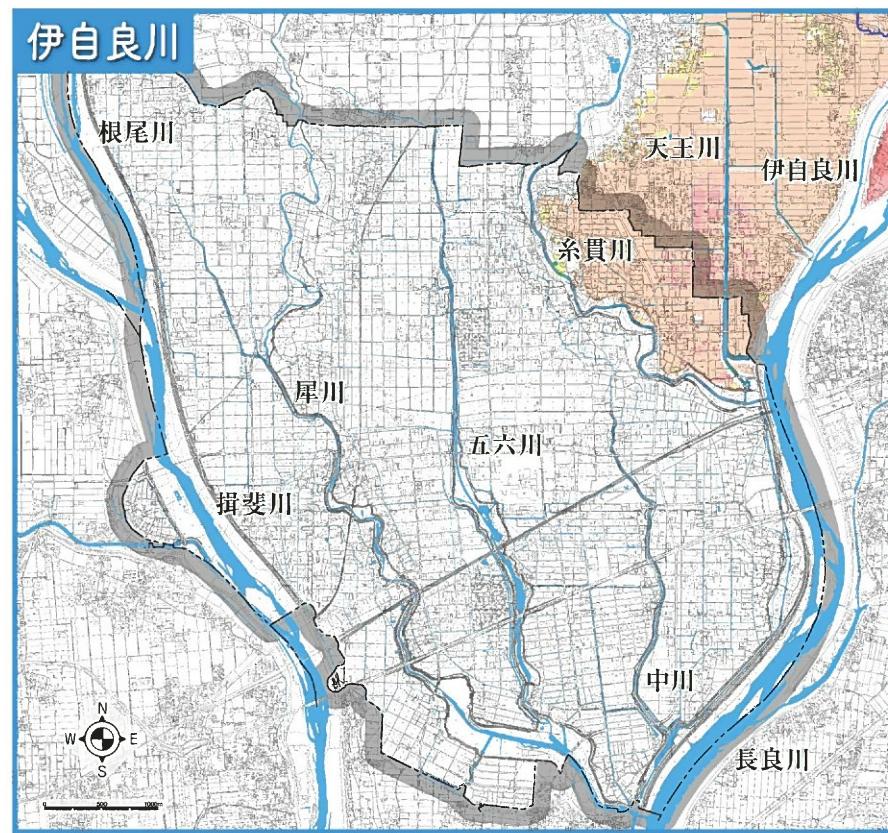
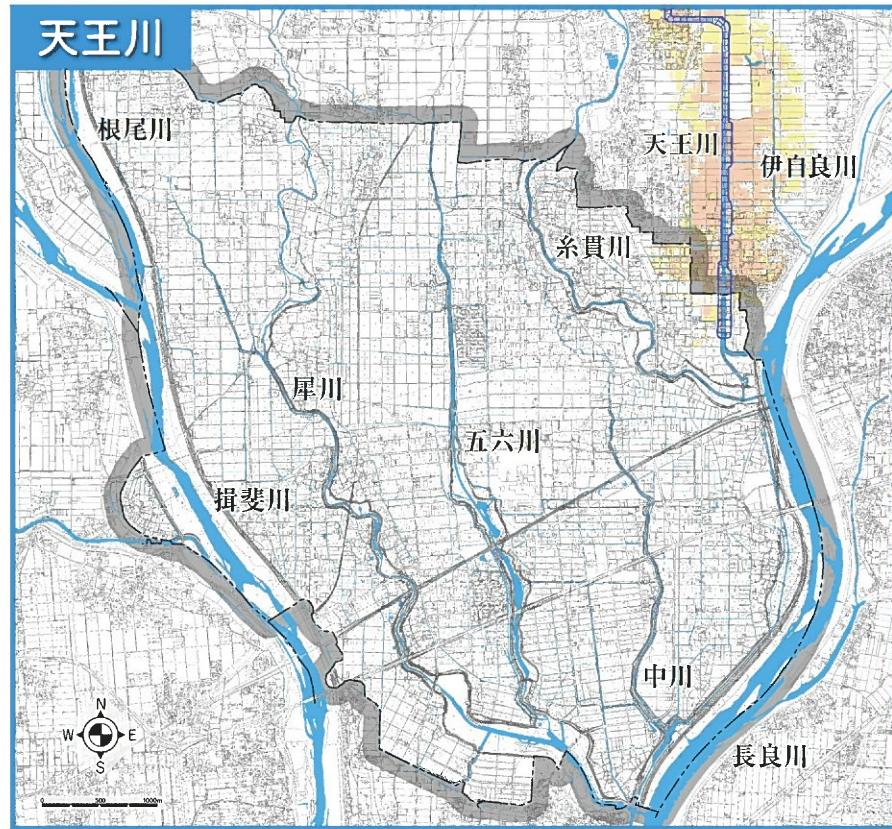
洪水浸水想定区域図（想定最大規模）

風水害対策

地震対策

その他の災害対策

災害に備える



天王川

- この図は、木曽川水系天王川の岐阜県管理区間について、水防法の規定に準じた手法により想定し得る最大規模の降雨による洪水浸水想定区域と浸水した場合に想定される水深を表示した図面です。
- 指定の前提となる降雨：天王川流域の24時間総雨量 836mm

伊自良川

- この図は、木曽川水系伊自良川の水位周知区間について、水防法の規定により指定された想定し得る最大規模の降雨による洪水浸水想定区域と浸水した場合に想定される水深を表示した図面です。
- 指定の前提となる降雨：伊自良川流域の6時間総雨量 430mm

この洪水浸水想定区域図は、各河川の河道の整備状況を勘案して、想定し得る最大規模の降雨に伴う洪水により、それぞれの河川が氾濫した場合の浸水の状況をシミュレーションにより予測したものです。なお、このシミュレーションの実施にあたっては、支川の(決壊による)氾濫、シミュレーションの前提となる降雨を超える規模の降雨による氾濫、高潮及び内水による氾濫等を考慮していませんので、この洪水浸水想定区域に指定されていない区域においても浸水が発生する場合や、想定される水深がが実際の浸水深と異なる場合があります。



内水氾濫と外水氾濫

内水氾濫

氾濫の発生イメージ

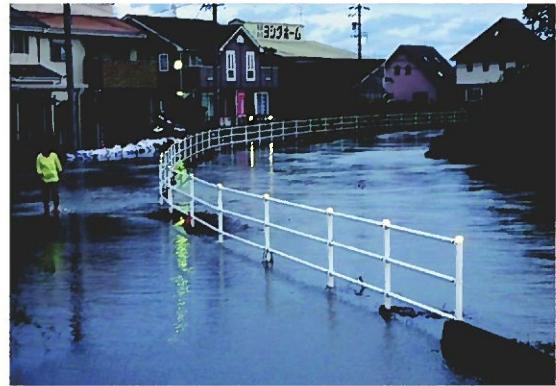


外水氾濫

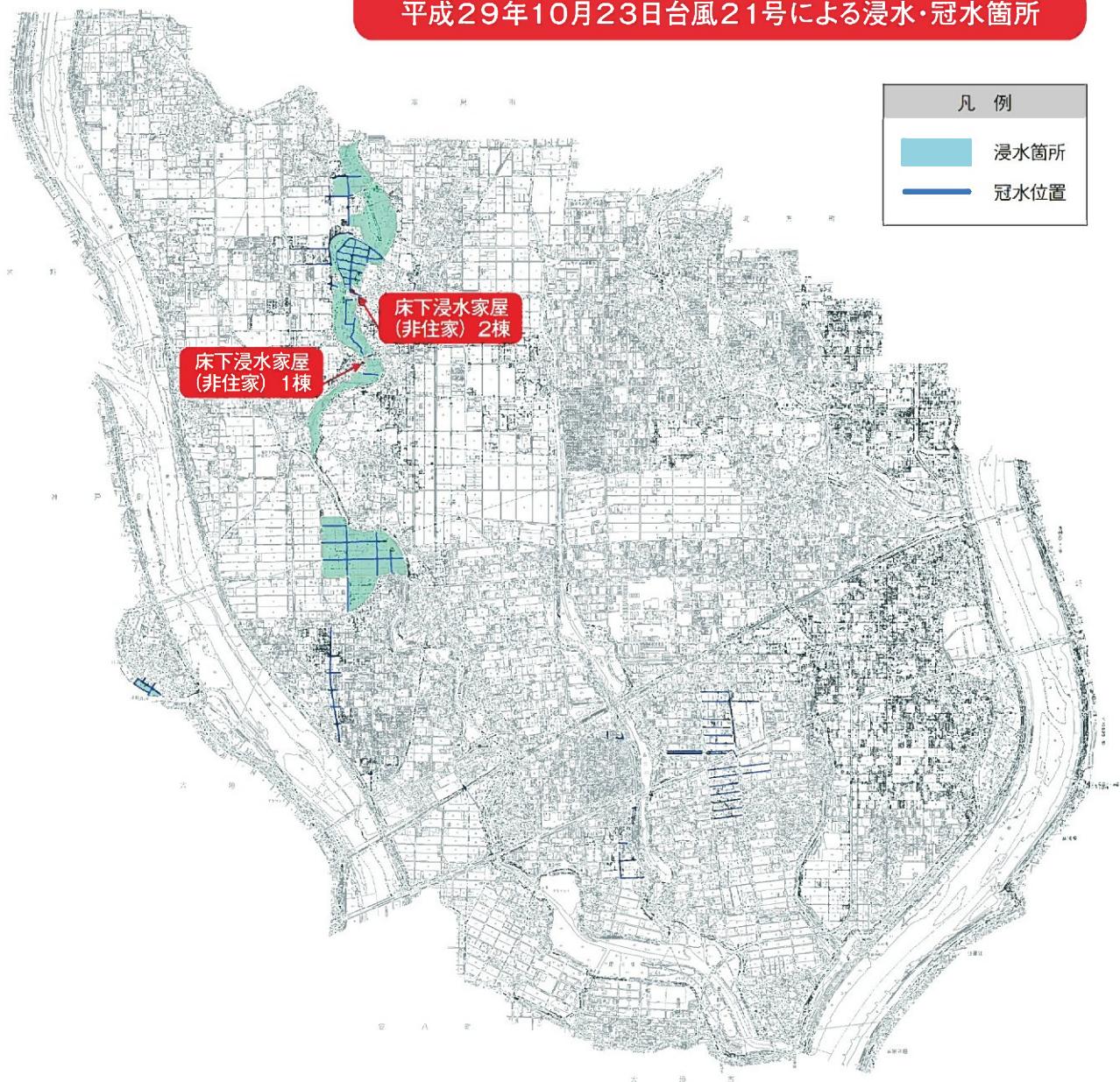


<p>発生のしかたが違います</p>	<p>猛烈な豪雨が降ると、側溝や下水道の排水能力が追い付かなかったり、河川の水位が上昇して排水できないことがあります。このように、地域に降った雨を排水しきれずにその地域で水があふれた状態のことを「内水氾濫」といいます。</p> 	<p>大雨によって河川水位が高くなると、堤防を越えて水があふれたり(越水)、堤防が壊れたり(決壊、破堤)することがあります。このようなことが原因で生じる氾濫のことを「外水氾濫」といいます。</p> 
<p>浸水エリアが違います</p>	<p>降った雨の規模によって、地盤の低い場所や川沿いなど、市内のいたるところで内水氾濫による浸水が生じる可能性があります。</p>	<p>どの河川の氾濫かによって浸水エリアが異なりますが、川に近く低い土地ほど浸水が生じやすく、浸水深が深くなります。</p>
<p>危険度が違います</p>	<p>一般に外水氾濫に比べて流速は速くありませんが、局所的な低地や急勾配な場所などでは流速が速くなる恐れがあり、浸水深が浅くても危険な場合があります。</p>	<p>越水や決壊・破堤による氾濫水は、家屋でさえ破壊するほどのエネルギーで一気に押し寄せてくるため、一般に流速が速くなります。とりわけ河川に近い場所では注意が必要です。</p>
<p>内水氾濫と外水氾濫の関係</p>	<p>上記のように、内水氾濫と外水氾濫は、発生のしかたや浸水エリアなどに違いがありますが、どちらの氾濫も大雨によって発生します。そのため、どちらかが発生したらもう片方は発生しないということではなく、どちらかが発生したらもう片方も発生直前であるといえます。</p>	

平成29年10月に発生した台風21号の接近に伴い、瑞穂市では洪水警報が発令され、激しい風と豪雨となりました。市内では大雨の影響により、河川や用水路の水位が上昇し、複数箇所の道路が冠水しました。特に犀川（森・田之上地区）では、平成14年に水位計を設置して以来、最高値となる2.28mを観測し、消防署、水防団によって土嚢が設置されました。



平成29年10月23日台風21号による浸水・冠水箇所



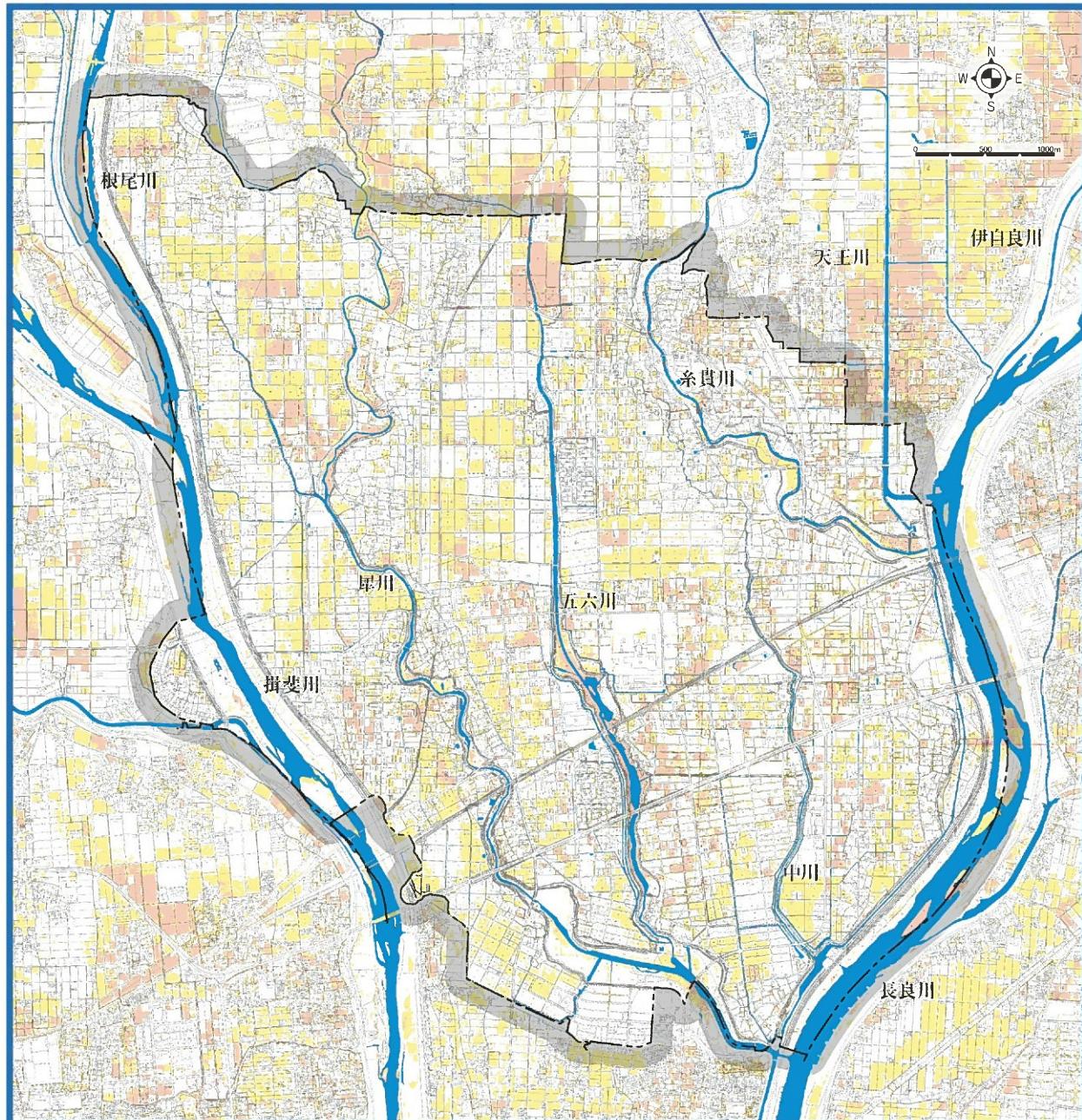
この図は、瑞穂市が含まれる地域で想定される最大規模の降雨（1時間最大：147.0mm、24時間最大：974.3mm）が、瑞穂市及び隣接する市町全域に降った場合の浸水区域及び最大浸水深をシミュレーションにより求めたものです。

想定を超える大雨が降った場合、河川が決壊した場合、ポンプの運転調整をした場合を考慮していませんので、実際の浸水区域や浸水深がこの図より大きくなることがあります。

浸水深0.2m未満の色が無い箇所においても、道路冠水程度は想定されます。

浸水想定区域の凡例

3m以上 の浸水想定区域
50cm以上～3m未満 の浸水想定区域
20cm以上～50cm未満 の浸水想定区域





家の内外の風水害対策

屋外

台風や豪雨の到来は、予測できるからと安易に考えてはいけません。大雨や強風は、私達に何度も大きな災害をもたらしています。油断せず日頃から十分な対策を立てておきましょう。

雨どい・雨戸

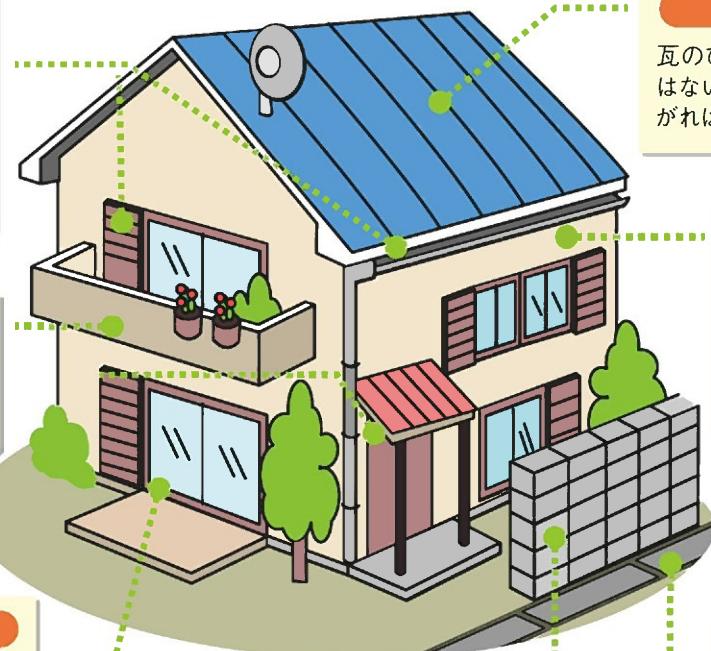
雨どいに落ち葉や土砂が詰まっていないか。継ぎ目のはずれや塗装のはがれ、腐りはないか。雨戸にガタツキや緩みはないか。

ベランダ

鉢植えや物干し竿など飛散の危険が高い物は室内へ。

窓ガラス

ひび割れ、窓枠のガタツキはないか。また、強風による飛来物などに備えて、外側から板でふさぐなどの処置を。



屋根

瓦のひび、割れ、ずれ、はがれはないか。トタンのめくれ、はがれはないか。

外壁

モルタルの壁に亀裂はないか。板壁に腐りや浮きはないか。プロパンガスのボンベは固定されているか。

側溝

側溝のゴミや土砂を取り除き、雨水の排水をよくしておく。

屋内

- 停電に備えて懐中電灯や携帯ラジオなどを準備する。
- 避難に備えて貴重品などの非常持出品を準備する。
- 気象情報や市からの情報に注意する。
- むやみに外出しない。
- 断水などに備えて、飲料水などを確保しておく。
- 浸水などの恐れがある場合は、家財道具や食料品、衣類、寝具などの生活用品を高い場所へ移動する。
- 高齢者や子ども、病人などの要配慮者を早めに避難させる。
- テレビのリモコンの“d”ボタンを押して、データ放送を見る。





命を守るために行動（＝避難行動）を取りましょう

風水害などの災害が発生する恐れが高まったとき、命を守るために行動（＝避難行動）を取ってください。

避難行動には、次の④つの行動があります。災害の種類ごとに危険な場所を把握し、どのような行動を取ればよいかをあらかじめ確認しておきましょう。

立ち退き避難

①避難場所・避難所への移動

②避難場所・避難所以外の安全な場所
(親戚や友人の家等)への移動

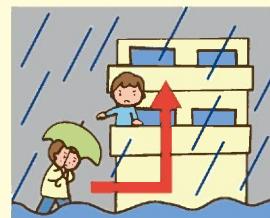
③近隣の高い建物、強度の強い建物等
への移動

屋内安全確保

④建物内より安全な場所(高い場所など)
への移動とその場所での待機

● 避難途中…浸水がひざ下近くまできたら

近くにある
高い建物などに
避難して
ください！



通常、浸水が50cmを越えた場所での避難行動は危険です。水の流れが強いときは15cmでも危険です。

● 自宅にいるとき…浸水が始まったら

すぐに上へ
避難して
ください！



勇気をもって避難しよう ● 逃げ遅れずに、生き残るために率先避難!!

隣近所が避難している姿を見たり、避難の呼びかけが近所からあると避難率は飛躍的に高まります。避難勧告や避難指示の発令時は、みんな不安の中にあります。そんな時、隣近所に声を掛け率先して避難する勇気が多くの命を救うことになります。自らの避難が自分の命のみならず近隣住民の命も救うことになります。

強い雨、ここが危険

強い雨が降ると河川のほかに、下記の身近なところが危険になります。

側溝のつまりによる氾濫



溜まった雨水
が、排水されず
に道路などに溢
れ出した状態で
す。歩行者が足
を取られる危険
性があります。

アンダーパスの浸水



複数の鉄道路線
や道路が地下で交
差する構造をアン
ダーパスといいます。
雨水が溜まりやすく、
車両が水没する危
険性があります。



やむなく浸水の中を歩かなければならぬときの注意

- 歩ける深さの目安は大人で50cmまでです。それ以上は救助を待ちましょう。



- 水深が浅い場所でも流れが速い場合は、非常に危険です。無理をせず救助を待ちましょう。



- 高齢者や身体の不自由な人は背負って避難しましょう。



傘は使わず、雨合羽を着用する。

軍手(手袋)を着用する。

長い棒を杖にして、安全確認をしながら歩きましょう。

水面下には、側溝や障害物などもあり危険です。



避難するときの服装

非常持出品はリュックサックに入れて背負う。



- 氾濫による水は汚水が混ざっているので、むやみにさわらないようにしましょう。**さわっちゃダメ!**

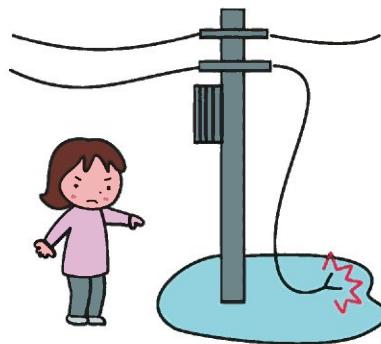


ひもでしっかり締められる運動靴をはきましょう。

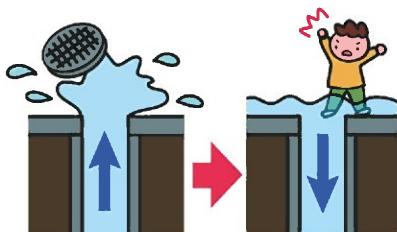
裸足や長靴は危険です。



- 切れた電線など、危険な場所には近寄らないようにしましょう。



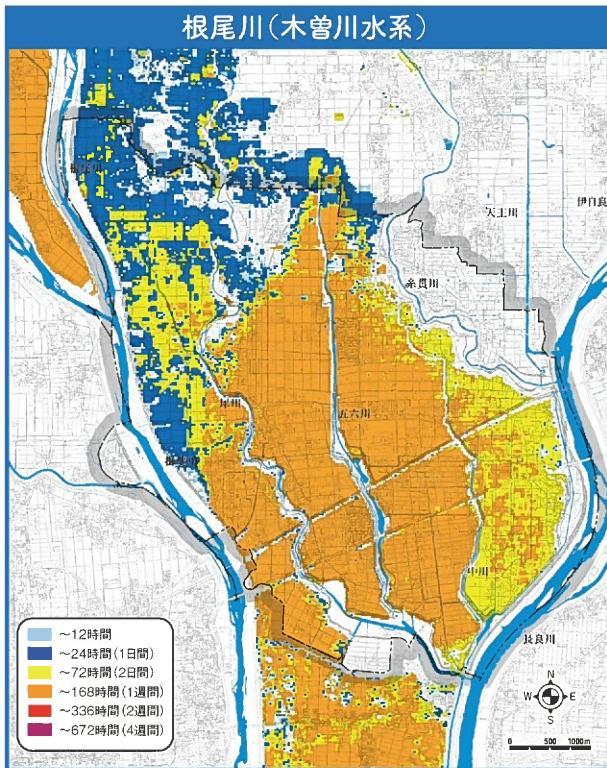
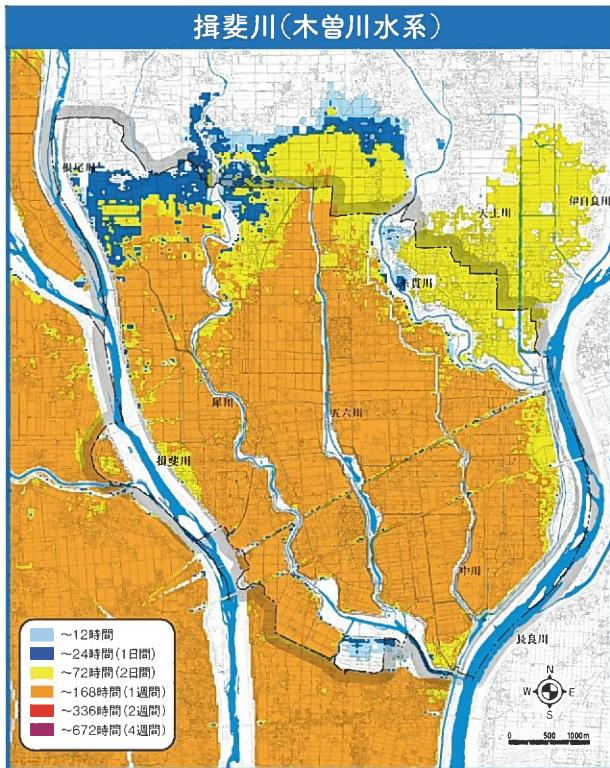
- 深い浸水だとマンホールに気付かず、吸い込まれてしまう場合があります。



- 幼児は浮き袋やベビーバスなどが便利です。

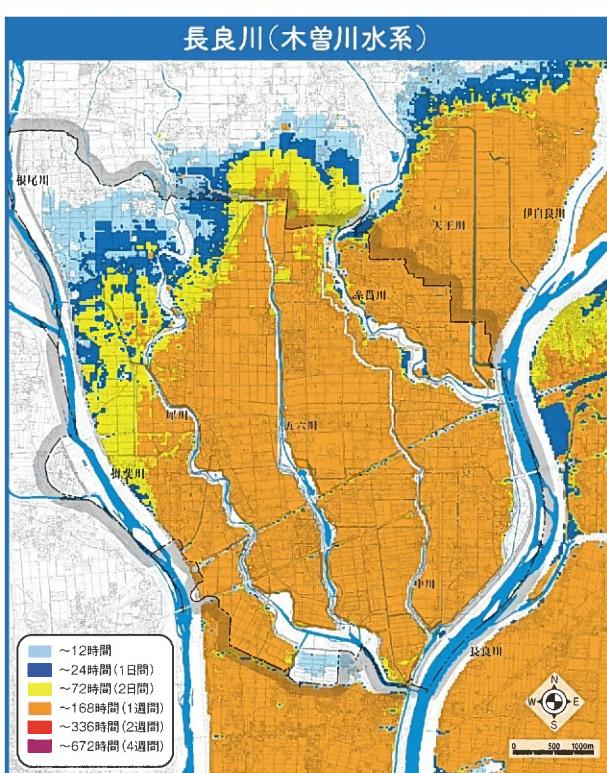


瑞穂市は揖斐川、根尾川、長良川の上流部での大雨により、堤防が決壊した場合や、瑞穂市周辺の大河による内水氾濫では、屋外の避難が間に合わない可能性があります。また、浸水継続時間が長くなる傾向があるため、自宅に留まった際の生活環境の悪化が懸念され、速やかに避難することが重要です。また、日頃から食料や飲料水、簡易トイレ等の備蓄を行いましょう。



洪水浸水想定区域図 (浸水継続時間)

- これらの図は木曽川水系揖斐川、根尾川、長良川の洪水予報区間について、水防法の規定に基づき浸水継続時間を表示した図面です。
- この浸水継続時間は、揖斐川、根尾川、長良川の河道の整備状況を勘案して、想定し得る最大規模の降雨に伴う洪水により、それぞれの河川が氾濫した場合の浸水の状況をシミュレーションにより予測したものです。
- なお、このシミュレーションの実施にあたっては、支川の（決壊による）氾濫、シミュレーションの前提となる降雨を超える規模の降雨による氾濫、高潮及び内水による氾濫等を考慮していませんので、この想定される浸水継続時間が実際の浸水継続時間と異なる場合があります。





浸水継続時間が長い区域について

自宅に留まった場合の生活環境の悪化

浸水時に自宅等に留まり孤立化した場合、停電や通信の途絶、上水道の停止等に伴い、空調、照明、調理器具等の停止や水洗トイレが使用不可となる等、著しく生活環境が悪化します。また、各家庭での食料等の備蓄も限られており、浸水継続時間が数日～数週間と予測される地域では、健康障害や場合によっては生命の危機も生じる可能性がありますので、速やかな避難が必要です。

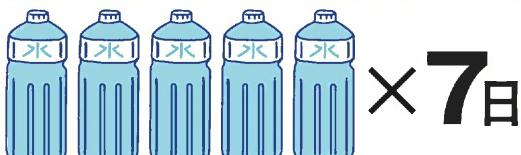


7日間過ごすために必要なもの

4人
家族

4人家族がいる場合に7日間過ごすために最低限必要な備蓄用品です。災害発生から3日をすぎると生存率が著しく下がってしまうため、災害発生から3日間は人命救助が最優先になります。道路の復旧や避難所への物資輸送はその後になり、大規模災害時にはさらに復旧が遅れる可能性があることから、7日間程度は自力で乗り越えられるよう準備しましょう。

備蓄品イメージ

● 水 $2.5\ell \times 4\text{人} \times 7\text{日} = 70\ell$ (2ℓ×35本)● 食料 $3\text{食} \times 4\text{人} \times 7\text{日} = 84\text{食}$ ● 尿・便 $1.5\ell \times 4\text{人} \times 7\text{日} = 42\ell$ (簡易トイレ45～50個)

停電について

平成30年台風21号は非常に強い勢力で関西圏を中心に大規模停電をはじめ甚大な被害が発生しました。また、北海道胆振地方中東部を震源としたM6.7の地震では道内全域で大規模停電や断水が発生しました。このような大規模停電時のライフラインの復旧には時間がかかることが想定されます。

119番通報について

固定電話などは停電時に使用できない場合があります。このようなときは、携帯電話や公衆電話などにより「119番通報」をしてください。

また、緊急通報システム*についても、停電時は作動せず、消防機関等へ通報されない場合がありますのでご注意ください。
※火災・救急事案発生時に自動又は手動で消防機関等に通報できる機器

家電製品使用について

電気機器の使用中に停電した場合は、停電から復旧した時の火災発生防止のためスイッチを切り、念のためコンセントを抜きブレーカーを切ってください。

エレベーター閉じ込め防止について

エレベーターを利用中に停電になったら、ドアを無理にこじ開けずそのまま待機してください。閉じ込められた場合は、インターホン等で救助を要請してください。

火気の使用について

卓上ガスコンロやロウソク等を使用する場合は、近くに燃えやすいものを置かないようにし、その場を離れないようにしてください。また、代替照明は、できるだけ懐中電灯などを使用してください。



排水ポンプの運転調整 | ポンプ排水を停止する場合

市内には、国県等の排水ポンプ場が6箇所、市が管理する排水ポンプ場が3箇所あります。それぞれの位置は、「ハザードマップ」を参考にしてください。



大雨時

大雨によって河川の水位が高くなると、堤防の決壊を防ぐため、やむを得ずポンプの運転を止めることができます。これにより、内水氾濫による洪水が大きくなる可能性があります。

半地下家屋などの注意点

半地下家屋、地下室では

- 道路面から家屋に、雨水が流れ込みやすく、浸水する恐れがあります。
- 流れ込んだ水圧によりドアが開きにくくなり危険です。

浸水の恐れがあるときは、半地下となっている部屋などへ入らないようにしてください。浸水防止のための土嚢、水嚢、止水板などを準備してください。



- 豪雨時に下水道管内の水位が上昇することにより、道路面より低い場所にトイレや風呂場などがあると、下水が逆流する場合があります。

汚水用排水ポンプ槽などを設置し、下水が逆流しない構造にしてください。

半地下家屋とは

半地下家屋とは、建築基準法で床が地盤面下にある階で、床面から地盤面までの高さがその階の天井の高さの3分の1以上のものを地階と定めています。これに該当しないものは、一般的に半地下と呼ばれています。